

仏の願い

平成 22 年 西雲寺だより 夏号 (17 号)

永代経のご案内

7月10日(土)～11日(日)

10日 お逮夜(2:00～) お初夜(7:00～)

11日 お日中(10:00～) お逮夜(2:00～) お初夜(7:00～)

法話 美浜 南 真琴師

11日はバスが出ますのでご利用下さい

放送会館前発(8:50)～東別院前～工大温泉前～西安居経由
坪谷発(9:00)

常森発(9:00)～国見～鮎川～小丹生経由

おさそい合わせの上
多数ご参詣下さい

親鸞聖人の生涯

関東の親鸞聖人

一心帰命

親鸞聖人の稲田での生活はどのようなものだったのでしょうか。『御伝鈔』には、

親鸞聖人は越後国から関東の常陸国(ひたちのくに 今の茨城県)へ移つて笠間(かさま)郡稲田郷というところに隠居せられました。するとひっそりとかくれて住むつもりで庵室の戸も閉じていたのですが僧尼や一般在家の人びとがつぎつぎとやってきて、門前は民衆でいっぱいになりました。仏法を社会に広め、民衆を救済したいという聖人のかねてからの念願は、こうして達成されたのでした。「青年のころ、京都六角堂の救世観音菩薩から聞かされた夢の告げとピツタリだね」とつくづくおっしゃったことでした(口語訳)

と淡々と記されている。聖人は辻説法のよくな強引な伝道教化はされなかつたようである。庵室を訪れる人には区別なく招き入れ、話しを聞き、お念仏のよろこびを語ったのである。仏法は仏法に生きる人の人格によつて伝わるものである。聖人の人格に魅せられて、自然に人が集まつてきたのです。

聖人は流罪の地、越後で「親鸞」と名告(なの)られました。これは『大無量寿経』の論、『浄土論』をお造りになつた天親菩薩

の「親」の一字と、更にその『浄土論』を註釈されて『浄土論註』をお造りになられた曇鸞大師の「鸞」の一字をいたただかれて「親鸞」と名告られたのです。この名告りには、『大無量寿経』に説かれている本願にめざめ、大乘菩薩道を歩ましめられる身となつたという感慨が込められているのです。天親菩薩は『浄土論』の冒頭に

世尊(お釈迦さま)、我一心に、尽十方無碍光如来に帰命し、安楽国に生まれんと願ず

とご自身の信心を表白されています。親鸞聖人は天親菩薩の「一心帰命」に深い示唆を与えられ、この一心帰命の信心こそ如来より賜つたものであり、この信心を歩むことこそ大乘の菩薩道であることをいたされたのでした。聖人は「一心帰命」の信心において自己を語りお念仏の功德を讃嘆していかれたのです。

ここ関東において聖人は一寺を建立しようという意図はありませんでした。すこし人屋(じんのく)を区別して小棟(こむね)をあげて作つた道場や如来堂、太子堂といった部落の辻堂(つじどう)に人々は集まる。集まる日は法然上人の命日である二十五日が多かつた。彼らは名号本尊をにかけて、聖人を中心に仏法を語りあい、念仏を称えた。これまで仏教の僧伽(集まり・共同体)などかいまみることさえなかつた民衆にとつて、このささやかな念仏のつどいはまさしく新鮮なおどろきであつた。しかもそこでは人間が胸襟(きょうきん)をひらいて語りあい、世々生々(せせしゅうじゅう)の父母兄弟のごとく、一点のわだかまりもなく生き生きと生

きる共通の場となつていた。そしてお互い如来の大悲の中にすでに摂取され、共に浄土への道を歩む御同行御同朋であるという確信が生まれていたのでした。

教行信証の執筆

聖人が稲田に定住したときには大きな目的があつた。それは『教行信証』の執筆であつた。法然上人の著わされた『選択集(せんじゃくしゅう)』が聖道門より論難され、承元(じょうげん)の法難をひき起す原因ともなつたのです。聖人は『選択集』こそが末法の世において一切の衆生をすくうまことの仏道であることを自らの信仰体験とおして体系的に顕らかにすることこそ、法然上人の恩徳に報いることであると深い使命感をもたれたのです。しかし『教行信証』を著すには大部の経・論・釈を読みこなさなければなりません。幸い稲田に近い鹿島神宮や香取神宮、そして豪族の屋敷には膨大な經典や論、釈が所蔵されていたのです。聖人はそれらの神社や邸宅に通つて、経・論・釈を讀破し、大切な部分を写して歸られたのでした。『教行信証』の草稿まで十年を要し、八十歳頃まで推敲(すいこう)を重ね手を加えて完成されたのです。

弥七夫婦のこと

聖人が稲田の草庵にいたときのこと、稲田から三里(十二キロ)の福田という所に極貧の弥七夫婦が住んでいた。夫婦は無二の念仏者だつたが、着物が一枚しかなく稲田の草庵のもとには交互に訪れるしかなかつた。だが一日でも聖人の教えを聞きもらすのは惜し

い、そこで弥七は裸同然の女房をつづら籠に入れ、それを背負って稲田の草庵に説法を聞きに行くことにした。ところが稲田に着いて聖人の教えを聞いた女房は歓喜念佛して思わずつづらから躍り出てしまった。これを見た聴聞者はドツと大笑いした。しかし聖人は「静かにしなさい。お念仏をいただくことは賢人や善人ぶつたりする必要はない。外面をいかに飾ろうとも、心に真実がなければ何にもならない。弥七の女房はまことの念仏者ですぞ」と誉めたたえられたという。

山伏弁円(べんねん)

庶民にとつて山の神や仏、菩薩は豊作の祈り、雨乞い、疫病退治の祈祷などの対象であり、山伏や修験者(しゅげんじゃ)は、庶民の要求に応じて加持祈祷(かじきとう)をし



弁円懺悔の木像

てきたのです。それに対して反感を持った者が出てきたのです。それが山伏弁円で、聖人を殺害しようと企てたのです。稲田にお住まいの聖人は布教のため板敷山(いたじきやま)をつねづね往来しておられました。弁円は殺意をもちこの道筋に待ちぶせしていました。むかし板敷山には上の道と下の道があつて弁円が上で待ち受けていたときは下に、下のときは上を聖人は通られたといわれます。すれちがってばかりいて目的を遂げることができない。弁円は不思議な気がして草庵に乗りこんだのです。その時

弁円は弓矢や大刀をたずさえていました。その時聖人には何のこだわりもありませんでした。親しみをこめて弁円を迎え入れたのです。このおだやかな尊顔を拝して弁円の害心はたちまちに消滅したといえます。それだけでなく後悔の涙さえあふれたのです。弁円はすべて告白しました。聖人の殺害計画も素直に申し立てました。しかし

聖人に驚きの色はありませんした。「親鸞もあなたと同じような恐ろしい心をもつていようか。弁円はその場で武器をすてて山伏の装束である柿の衣をぬぎすて聖人に弟子になることを願ひ出たのです。聖人は大変およろこびになり、明法(みょうほう)という法名をお授けになり、その後は熱心な念仏の行者となりました。

山も山、道も昔とかわらねど

のち、弁円がみずからの心境を板敷山でよ

んだうただと伝えられています。明法房は聖人に先立つて亡くなりました。その知らせを受けたとき、聖人はすでに京都に帰っておられました。明法房はお浄土に往生したにまちがいないと関東の門弟に次のように書き送っています。

明法房が極楽へ往生したことは当然で、いまさら驚くべきことではないが、あらためて強くうれしく思う。これは常陸国の鹿島郡、行方郡、奥郡の、このようなめでたい極楽往生を願う方たち皆の喜びである。(口語訳)

聖人が弁円改め明法房をいかに高く評価されていたかがうかがえる。
板敷山のふもとには弁円ゆかりの寺、大覚寺があります。
(住職)



板敷山大覚寺

皆様のおかげで 本山差し向け布教が つとまりました

弥陀智願の回向の信楽まことにうるひとは
損取不捨の利益ゆえ 等正覺にいたるなり



安田・未定文好氏宅にて



西雲寺にて



本堂・八木健二氏宅にて



姫路より八木浄顕師

この小説は、桜井翔・宮崎あおい共演で映画化され、来年公開予定だそうです。末期の胆のう癌である女性が、全く身寄りがないにもかかわらず、穏やかに死を受け入れていく様子がとても印象的でした。

「神様」というタイトルは、医師の腕前のことでもなく、癌という非情な運命を指すのではなく、世間でいう不幸な境遇の中での不思議な幸せを指すのだと思います。常識では考えられない明るさや安心が、逆境の中に現れる驚きです。医師や看護師もまた、彼女の不思議な明るさから生きるエネルギーを得るのです。

一体その不思議の源は何でしょう。幸せの源は何でしょう。角度を変えれば、私たちは死期迫る病室で、究極的に何があれば幸せなのでしょう。僕は「私なしの愛」だと思いました。

映画では、女性や医師を「私なしの愛」を交わし合う特別な人だと描くのかも知れませんが、でも仏教に出会ってみると、彼らも「私なしの愛」を無数の先輩から与えられた普通の人だと感じます。だって、彼らだけでなく僕の周りにも、不思議な「私なしの愛」によって救われた先輩が沢山いますもん。(编者)

図書紹介

『神様のカルテ』

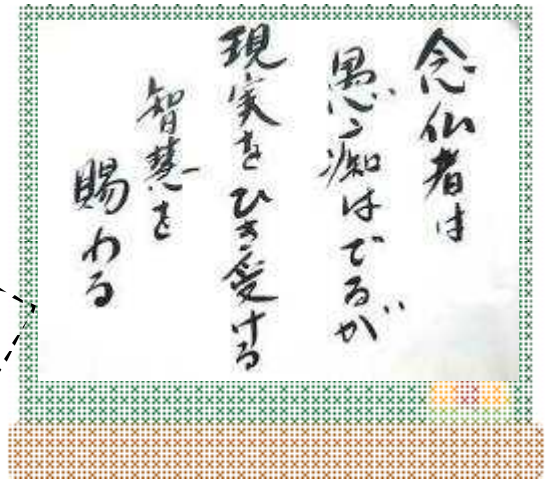
夏川草介著

小学館 2009年

税込1260円



山門掲示板



私たちは毎日、愚痴をこぼしながら日暮しをしています。凡夫のすがたです。愚痴は、鉄がやがてさびて腐っていくように、我身を亡ぼす、最も恐ろしい煩惱だといわれています。愚痴は無明(むみょう)ともいわれ、明りがなく、智慧がないことです。私たちは真実の智慧が無いことから、物事を正しく受けとめることができず、いつも思うようにならないと暗い顔をしているのです。私たちの智慧は、我執(がしゅ)にとらわれ、いつも打算的、功利的です。善悪でも自分の都合のよいものは善であり、都合の悪いものは悪で、ダメなもの排除しようとしています。如來の智慧は清淨(しょうじょう)で純粹です。物事をそのまま見る眼です。この如來の智慧を賜われれば、私に起こるすべての出来事はすべてが宿業(しゅくごう)であると感じ、引き受けていくことができますのです。私たちはお念仏においてこの智慧を賜われるのです。(住職)

先輩の感動をたずねて

謝らなあかんのに「ごめんなさい」ってどうしても口に出てこない、そんな経験ありませんか？「なんまんだぶつ」もよく似てて、法事やお墓の前で称える場面やのに、どうしてもノドにつかえて出てこない...そういうことってあると思うんです。念仏ってなくんか負けを認める気がするし、訳の分からんものを認める気もするし...そう話してくれた方もおられました。

親鸞聖人は、念仏は自分を懺悔するしるしであり、同時に仏さまをほめるしるしだと言われます。自己チユーを認めて、敵味方のない仏の国を願うしるしだと言われるのです。そんな仏さまのような心(至心信樂)、私個人に起こるはずがありません。

もし念仏(本願の名号)が口から出たならば、それはまったく先輩方の背中を通して仏の心(至心信樂)が私に届けられた証しであり、目の黒いうちに仏さま(至心信樂)に出会ったしるしであり、最高に愛すべきしるしなんだと、聖人は感動しておられるのですね。(編者)

しんしんぎょうがんにいん
至心信樂願為因
 親鸞作『正信念仏偈』より

読み方 至心信樂の願を因とす。
 至心 混じりけなしの心。仏になるための真実の種。

信樂 混じりけなしに受け取る心。至心を喜び愛する心。
 至心信樂の願 至心・信樂・欲生の心を起して念仏する人を必ず救

うという阿弥陀仏の願い。



コーラスや音楽の好きな方へ

ご本山 親鸞聖人750回忌 音楽法要の参加者募集!

日にち 平成23年5月22日(日)午後4時~5時
 ところ 京都 佛光寺本山 御影堂
 資格 年齢・性別・経験一切問いません どなたでも!

- <あらし> 音楽法要とは歌声にのせて仏さまをたたえるおつとめです
 三帰依(ブツダ~ン サラナ~ン ガッチャ~ミ~)
 正信讃歌(帰依したてまつる みほとけに~
 五劫のしゆい おごそかに~ ...つづく)
 和歌(御門主やお裏方が詠まれた和歌6首を念仏と共に
 な~むあ~みだ~ぶ 和歌 な~むあ~みだ~ぶ 和歌...)
 回向(が~んに~しくど~く~ ...)
 歎異抄(みだの~せいがんふしぎに~たすけられまいらせて...)
 恩徳讃(によ~らいだいひの~お~んどくは~ ...)
 真宗宗歌(ふか~きみの~りにあ~い~まつる~ ...)

7月頃に楽譜とCDのセットが本山から発売される予定です。
 当日は西雲寺から日帰りのバスを運行する予定です。ただし福井帰着は遅くなると思われます。
 服装は、下を黒色、上を白色とする予定です。
 西雲寺におきまして、何回か練習をする予定です。
 定員は全国で200人ほどの見込みです。全体練習を今年11月、来年2月、4月の3回行う予定です。そのうち1~2回は京都に出向かれて参加いただきたく思います。

ご希望の方は西雲寺まで

(楽譜とCDを手配いたします)

50年に1度のご縁ですよ~お早めに

(秋廻りを待たずなるべく7月中にご連絡下さい)

発行

真宗仏光寺派 専念山 **西雲寺**
 住職 護城一寿
 筆頭総代 鈴木春夫
 編集責任者 護城一哉
 〒910-3523 福井市武周町5-2
 電話 0776-97-2138
 メール kmgojo@mx3.fctv.ne.jp
 ホームページ <http://arukou.net/>

次世代の方、分家された方に!

お手元に2部届いた時には、ぜひご活用下さい。

みなさんの声 大募集!

原稿や作品はもちろん、ご意見、ご感想など、どしどしお寄せ下さい。郵送でもメールでも構いません。お待ちしております。